

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和8年3月6日
函館市立昭和小学校

1 本年度の重点教育目標

気づき、考え、行動する子の育成

2 本年度の取組の重点

- 1 (工夫する子) 主体的に課題を見つけ、意欲的に追究する子
- 2 (進んでする子) 自らの可能性を求め、積極的に取り組む子
- 3 (助け合う子) 自分らしさを生かし、触れ合い、高めあう子
- 4 (たくましい子) 自他の生命を思いやり、心身を磨き鍛える子

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見(改善策など)
1 工夫する子 進んでする子	学習スタンダードを身に付けさせているか(学習規律の定着)	a	学校全体で指導の結果の児童の姿を共有しながら定着に向けて指導していく。	A	A	素晴らしい取組状況である。
	授業の中で適用問題を行い、知識・技能を高めさせる授業を行っているか(授業改善)	a	校内で授業研究を進め、知識・技能の定着の成果が見られたので、今後も今年の成果を生かしていく。	A	A	このまま、取組を継続してほしい。
	考えを表現し学び合える学習を工夫しているか (ICTの活用・ユニバーサルデザイン)	a	高学年で様々な機能を活用できるように発達段階に応じた指導ができるよう下学年から取り組んでいく。	A	A	
	児童が、よりよいものを目指して工夫し、自主的な活動ができるように手立てを講じているか(指導技術の向上)	a	研究授業を通じた授業改善を進め、個別最適な学びを促していく。	A	A	
	地域との交流、連携した学びに取り組んでいるか(外部講師の活用・CSとの連携)	a	総合的な学習の時間の見直しを進める。また商業高校など地域との連携をさらに進める。	A	A	
	家庭学習の習慣化を図っている (学年×10分+10分・自学の手引き)	b	家庭学習強調週間の設定など今年度の取組を継続し、定着を目指す。	A	B	実効性のある取組を期待したい。
	本校の読書活動が、家での読書の習慣化につながっているか	b	読書週間等の工夫を通して読書への関心を高めた。図書だよりを保護者に配信し啓発を図っている。	A	B	実効性のある取組を期待したい。
	望ましい学習環境が整えられているか (教室環境・支援体制・適切な予算執行)	a	グラウンドの雑草について対策する。新入生の支援体制について架け橋期のカリキュラムの充実を図る。	A	A	
2 助け合う子	生活スタンダードを身に付けさせているか(校内外のきまり・生活リズム)	b	生活スタンダードの具体的な行動目標を設定し、指導していく。	A	A	きまりを守らせる工夫が必要である。
	児童会活動に主体的に取り組ませ、責任をもってやり抜く力をつけているか(児童会活動・各行事の充実)	a	活動内容を精選して児童会活動を進めていく。活動の個人内評価もを行い、自主的・実践的な態度を育む。	A	A	
	早寝、早起き、朝ごはんを心掛けさせるよう働きかけを行っているか	a	保健だよりや学級指導等を通して規則正しい生活の大切さを啓発する。	A	A	
	遊びでメディアに触れる時間を1日2時間以内で心掛けさせているか(メディアリテラシー・クロムブックの約束)	b	児童に対し、授業の中でメディアリテラシーを学ぶ機会を充実させる。	A	A	情報をどう整理していくのかの学びは喫緊の課題であり、取組を進めて欲しい。
	児童との会話を多くし、褒めて、伸ばすことを大切にしているか	a	児童の良いところを積極的に見付け、職員間でも共有していく。	A	A	
3 たくましい子	児童が、自分の心と身体に関心をもち、体力向上に取り組みよう働きかけを行っているか	a	体育の授業開始時に全学年でサーキット運動を取り入れ、基礎体力を向上する取組を進める。	A	A	
	道徳教育で自己をみつめ、相手の立場で物事を考えられる気持ち育てているか(いじめ対応・不登校対応)	a	道徳科の授業で、「自分だったらどうするか」を考える授業改善を進める。	A	A	ICT、視聴覚教材の導入を進めてみてはどうか。
	児童が、学校内外でも明るいあいさつができるよう働きかけを行っているか	a	先生が率先して挨拶をする姿勢を示し、啓発を図る。	A	A	
	児童が相手のことを考え、折り合いを付けられるように働きかけを行っているか(生徒指導対応)	a	児童に寄り添って一人一人の声に耳を傾け、心の成長を促す。	A	A	
EX	コストパフォーマンスやタイムパフォーマンスが向上するよう、業務改善に向けた取組を推し進めることができたか	a	校務支援システム等、ICTをより活用した業務改善を進める。	A	A	
	児童のウェルビーイング向上のため思いを確認する問いかけを行っているか	a	これからも指導や支援をする際に意識して取り組んで行く。	A	A	
	今年度行った交換授業は授業改善や業務化以前に繋がったか	b	授業改善には繋がっている。より業務改善が進むよう仕組みを整える。	A	A	子供からの良かったという声が重要である。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた (8割以上)
b	概ね達成できた (6割以上)
c	十分ではない (4割以上)
d	達成できなかった (4割未満)

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。